

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000161		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	たのしい家八戸ノ里		
所在地	大阪府東大阪市下小阪4-4-13		
自己評価作成日	令和4年9月23日	評価結果市町村受理日	令和4年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、家族様が共に「たのしい我が家」となるように職員は、笑顔で雰囲気作りに努めています。視覚、臭覚、聴覚、味覚、等刺激する為、手作りの食事にこだわっています。残存機能を生かし、出来ることの見守りと、出来ない事のお手伝いをさせて頂き、利用者のペースに合わせてケアをさせて頂いています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/28/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和4年10月19日		

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅に近い住宅地に立地し、近隣に商業施設・公園・小学校等があり、散歩・買い物等日常生活に便利な環境である。通常の地域交流や外出は休止しているが、地域や家族とのつながりを継続できるよう工夫して取り組んでいる。毎食手作りの食事を提供し、季節や行事を取り入れた献立、食事レクリエーション・イベント食等を企画し、また、菜園で育てた野菜や果物を収穫して食材として活用する等、食事の変化や季節感が楽しめるよう工夫している。毎月のフロア会議での個別カンファレンス、PDCAサイクルにもとづいたケアマネジメント等により、現状に即した個別支援に取り組んでいる。協力医療機関や訪問看護と医療連携体制を整備し、希望に応じて看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の読み合わせ、コンプライアンスマニュアルの読み合わせを引き継ぎ時に高い意識を高めている。	法人の「理念」を事務室に、「事業所ビジョン」を更衣室に掲示し、「コンプライアンスマニュアル」を適宜読みあわせ、共有を図っている。「事業所ビジョン」に、地域密着型サービスの考え方を明示している。管理者が期末に実践状況の振り返りを行い、次年度の「事業所ビジョン」の作成につなげている。	フロア会議等を活用し、職員が定期的に「事業所ビジョン」の実践状況を振り返る機会を設ける等、ビジョンを実践につなげる具体的な取り組みが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパー、美容院、整形外科クリニック等の地域資源を利用している。近隣の施設のお祭りや地域の行事に参加するようにしている。	コロナ禍のため通常の地域交流は困難な状況であるが、地域資源の活用、自治会への加入、回覧板や運営推進会議(議事録持参)を通してのつながりを継続している。また、時期を勘案しながら、近隣の小学校での地域フェスタや地域包括支援センターの催し物への参加、ボランティア(踊りの会)の来訪など、利用者が地域と交流できる機会作りに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ認知度は乏しいが、夏祭り、花火等、自治会を通してお誘いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、施設の取り組みや事故報告などを行い意見を頂戴している。	利用者・家族・地域代表(自治会長・民生委員)・地域包括支援センター・事業所職員を構成委員としている。コロナ禍のため、職員のみが参加して2か月に1回開催し、利用者状況・事業所状況・事故・苦情等を報告し議事録を作成している。議事録を全家族に郵送し、地域包括支援センター・民生委員に持参している。議事録ファイルを玄関に設置し公表している。	議事録に構成委員を明記することが望まれます。知見者の参加が得られるよう取り組まれることが望まれます。職員のみでの開催が継続するため、郵送・持参する議事録に返信用紙を同封し、返信された意見や情報を次回の議事録で共有する等、書面でも意見・情報交換できるよう工夫されてはどうか。

たのしい家八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導には必ず出席し関係書類の提出などは持参してコミュニケーションをとるようにしている。運営上の不明点があれば電話で質問をして回答を得ている。	質問事項や相談事項があれば、随時電話で問い合わせを行い、回答・助言を受けている。メール等でコロナ関連の情報提供を受け、事業所の感染予防対策に活かしている。福祉事務所のケースワーカーと連携し、利用者支援を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全従業員が身体拘束防止の研修を受け学んだことに取り組んでいる。玄関の施錠は解除していないが時間のある限り利用者の希望にて外出の機会を設けている。	身体拘束をしないケアを実践している。年間研修計画に沿って、年に2回「身体拘束適正化」のC-ラーニング研修を実施している。全職員が視聴し、確認テストの入力により管理者が受講を確認している。「虐待の目チェックシート」を活用した不適切ケア防止に向けた取り組みもある。「身体拘束等適正化のための指針」を整備し、2ヶ月に1回「虐待防止・身体拘束適正化委員会」を実施している。委員会では、事例0件の確認と、他施設での事例や「虐待の目チェックシート」の結果等をもとに、適正化に向けた検討を行っている。委員会の議事録を各フロアで回覧し、回覧印で周知を確認している。フロア・玄関は電子錠対応としているが、外出の希望があれば、近隣への散歩に同行する等、閉塞感を感じないよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の目チェックシートにて自己管理や他の職員への注意喚起を促している。チェックシートの結果によっては、面談もある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が人権に関する研修を受講し知識を得ている。カンファレンス、運営推進会議、家族との面会などを通じて各制度が必要になった場合は支援をしていく。		

たのしい家八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や解約、内容の改定等の際には、重要事項説明書や同意書等で納得していただけるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時の聞き取り、1年に1回のCS満足度調査にて情報を収集し、問題点を職員で話し合い解決している。	家族の面会時(面会スペースを設置し予約制で短時間)、電話連絡時等に近況を報告し、意見・要望の把握に努めている。毎月、「八戸ノ里便り」(写真を掲載し行事や生活の様子を伝える)、「家族様への手紙」(利用者担当職員が個別に、心身状況や生活の様子を文書で伝える)を郵送し、意見・要望を表しやすいように工夫している。玄関に意見箱も設置している。年1回、法人がCS満足度アンケートを実施し、結果を事業所にフィードバックしている。把握した意見・要望は、フロア会議・連絡ノート等で共有し、利用者支援や運営に反映できるよう取り組んでいる。利用者の意見・要望は、利用者担当職員を中心に日々のコミュニケーションの中から把握に努め、カンファレンス等で共有し、主に食事レクリエーションの献立等に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスや職員満足度調査にて意見や提案の機会を設けている。徹底討論、徹底和解と理念に掲げて都度話し合いの機会を設け個別面談も行っている。	月に1回各フロアでフロア会議を開催し、運営・業務・行事等についての報告・検討と、利用者の個別カンファレンスを行い、職員の意見や提案を反映できるよう取り組んでいる。日々の検討事項については、フロアリーダーが職員の意見を集約し、内容に応じて管理者にも相談し、「連絡ノート」で共有し統一した対応ができるよう努めている。法人が年1回職員満足度調査を実施し、法人に意見を直接伝える機会を設けている。管理者が、定期的には年2回、また、随時にも個別面談を行い、職員の意見を個別に聴く機会も設けている。	

たのしい家八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は、経営理念に「現場第一主義」を掲げており、職場環境、労働条件の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○トレーニングにて毎月パソコンにて社内研修を行うなど、社内研修と受講に努めている。 外部研修の受講を励行する社内風土もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所連絡会への参加など同業者と交流することを励行している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されてから信頼関係を築く為、とにかく時間のある限り寄り添い話を傾聴し不安解消に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時より本人や家族が不安の無いように質問の場を設けたり、面会時の報告や雑談の中から困りごとなどを汲み取って行く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴や家族の要望など話の中から情報収集し自分たちの持っている知識を生かして必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かして出来ることへの見守りと出来ない事へのお手伝いをさせて頂いている。人生の先輩として料理の仕方や味付けなど教えて頂き信頼関係を構築している。		

たのしい家八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者の日ごろの生活や様子などを報告しコミュニケーションを取りながら信頼関係を構築している。共に本人を支える関係づくりに努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人等の来訪を受け入れたり、買い物等外出時に馴染みのお店や美容室にお連れしたりしている。	コロナ禍以前は、家族の他にも友人や親戚の来訪があり、居室でゆっくり面会できるよう配慮し、また、職員同行で近隣のスーパー・美容室、家族同行で通院や墓参りに出かけ、馴染みの人や場との関係継続を支援していた。現在は、時期を勘案しながら、家族については玄関近くの面会スペースで予約制の短時間面会を設定し、買い物や通院外出を行う等、可能な方法で馴染みの関係が継続できるよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂で揃って食事を摂り、皆でゲームなどのレクリエーションを行って利用者同士の関りを支援している。利用者が孤立する事が無いように職員は声掛けをするようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても気軽に立ち寄って頂ける関係の構築に努めており、必要があれば支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、1～2名の利用者の担当になり暮らし方の希望などを伺い把握して、月1回のカンファレンスにて共有し、本人本位の支援に努めている。	利用者個々の思いや暮らし方の希望について、入居時の面談で把握した内容は、「アセスメント表」に記録している。入居後は、利用者担当職員を中心に日々のコミュニケーションの中から把握に努め、カンファレンス等で共有している。把握・共有した内容は、支援や介護計画に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な利用者については、選択肢を提示する等答え易い質問を工夫したり、家族からの情報も参考にしながら、意向に沿った生活を支援できるよう努めている。	利用者個々の家族構成・生活歴・生活習慣・趣味・嗜好等を記録し、新しい情報を追記して共有し、人物像の把握や個別支援に活かせる書式の工夫が望まれます。

たのしい家八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、今まで共に生活されてきた馴染みの物やアルバム等を持参して頂き、なるべく環境を変えないように努めている。過去のサービス事業者から情報を取得することもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、目配り、気配りにて一人一人の状況を把握し、普段と様子が違っていたら他の職員と共有し、主治医に連絡する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やそれ以外の聞き取り、日常生活の中から出た意見や情報を基に作成する。	入居時に「アセスメント表」をもとに暫定の介護計画を作成し、1か月以内に初回の介護計画書を作成している。毎月フロア会議の中で個別カンファレンスを行い、必要時には随時介護計画の見直しを行っている。定期的には3か月毎に「評価表」でモニタリングを行い、変更がなければ6か月毎に介護計画の見直しを行っている。介護計画を見直す際は、「評価表」でのモニタリング、「ケアチェック表」による再アセスメント、利用者・家族の意向をもとに担当者会議を実施し検討している。かかりつけ医等、関係者の意見があれば、担当者会議録に記載し反映している。	サービス実施記録はタブレット内の介護記録に記録している。介護計画ついで理解を深め、介護計画にもとづいたサービス実施を記録に残す工夫が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化などの記録を連絡ノートや申し送り等で共有し、必要に応じてカンファレンス等でケアの見直しを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の日常生活においての目配りから新しい気づき生まれる。カンファレンスにてそれぞれの意見から新たな気づき生まれる。それぞれを共有し支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しに参加するなど交流の場を少しずつ広げ資源の発掘を心がけている。		

たのしい家八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に際しては本人、家族の要望を尊重し地域の医療機関との関係構築にも努めている。	入居時に利用者・家族の意向を確認し、意向に沿った受診を支援している。協力医療機関による内科往診を月2回、訪問看護を週1回、希望に応じて歯科往診、訪問マッサージを受けられる体制がある。その他の受診については職員が同行し、利用者の状況を伝え、受診結果を把握している。受診状況・結果等については「内科往診ノート」「歯科往診記録」「訪問看護記録」に、また、「支援経過記録」にも記録し、「連絡ノート」やフロア会議の個別カンファレンスで情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の心身の状態やその変化について訪問看護師や薬局に相談したり必要であれば主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院中に安心して治療を受け早期に退院できるよう病院関係者からの協力依頼には丁寧に応じている。病院の地域連携課とは情報共有し関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を尊重したうえ、主治医、看護師などと連携しながら方針に沿ったケアに努める	契約時に、「重要事項説明書」内の「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。また、「急変時・終末期における医療などに関する意向確認書」で意向を確認している。終末期を迎えた段階で、主治医が状況を説明し家族の意向を確認している。家族に事業所での看取り介護の希望があれば、主治医が「看取り介護の同意書」を作成している。事業所では看取りに向けた「介護計画」を作成し、主治医・訪問看護師と連携し、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。経過については、「支援経過記録」に記録している。年間研修計画に沿って、「看取り介護」についてC-ラーニング研修を実施している。	

たのしい家八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応に関する研修を定期的に行い実施し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練などを実施し備えている。 災害用の備蓄も備えている。	年2回消防訓練を実施することとし、令和4年度は6月に昼間想定避難・通報・消火訓練を利用者も参加し、消防署立ち会いのもと実施し、消防署に計画書・報告書を提出している。2回目の訓練は11月に実施を予定している。年間研修計画に沿って、災害対応についてC-ラーニング研修を実施している。備蓄品については、法人が支給・管理し、1階の倉庫に保管している。地域との協力体制については、自治会・民生委員の協力を得て、今後取り組んでいく予定である。	夜間想定訓練も実施することが望まれます。また、訓練実施後は、実施記録を作成してフロア会議や回覧等で周知し、参加できなかった職員も含め全職員が、訓練の実施内容・消防署からの総評等を共有することが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人に向き合い声掛けや対応に努めている。トイレ時、入浴時にはプライバシーの確保に配慮している。	「接遇マナー」「人権・虐待・身体拘束防止」「認知症」のC-ラーニング研修を実施し、人格尊重や誇り・プライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。「虐待の目チェックシート」により定期的に振り返る機会を設け、また、気になる言葉かけや対応があれば管理者が注意喚起し、不適切ケアの防止に取り組んでいる。写真・映像の使用については、契約時に文書で同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いに寄り添い傾聴し、思いや希望を引き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを尊重した支援を行うように努めている。		

たのしい家八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時には衣服を選んで頂くこともある。2か月に1回の訪問理美容にて髪をカットしてもらったり毛染めなどもしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り調理、盛り付け、配膳、下膳を一緒に行い、昼食、夕食は、全員で一緒に召し上がる。	委託業者から献立と食材が届き、各フロアで調理し毎食手作りの食事を提供している。利用者個々に合わせた食事形態にも、委託業者・事業所に対応している。可能な利用者は、調理・盛り付け・後片付けに参加できるよう支援している。献立に季節の食材や行事食の配慮があり、事業所としても利用者の希望を取り入れた食事レクリエーションを企画したり、行事に合わせたイベント食(花見・敬老会・クリスマス等)には仕出し弁当やテイクアウトを利用する等、「食」が楽しめる機会作りに取り組んでいる。事業所の菜園で利用者と一緒に育てた野菜や果物も食材として活用し、利用者が季節感や収穫を楽しめるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や栄養士に適宜支持を仰ぎながら適切な摂取が出来るように支援している。必要に応じて歯科医師に嚥下状態を確認して頂くこともある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科にて口腔ケアをし職員に指導もしてもらっている。必要であれば治療もしてもらっている。毎食後口腔ケアを行っている。 (口腔衛生管理体制加算取得)		

たのしい家八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のタイミングを記録などから読み取り 適宜トイレ誘導を行い失禁の軽減、自立の 支援に努めている。	タブレット内の排泄記録で、排泄状況や排泄 パターンを把握し、看取り期の利用者以外 は、声かけ・誘導により、日中はトイレでの排 泄・排泄の自立に向けて支援している。夜間 は、安眠にも配慮し個別の方法で対応してい る。介助方法や排泄用品の使用について検 討事項があれば、フロアリーダーが職員の意 見・提案を集約し、「連絡ノート」やフロア会議 の個別カンファレンスを活用し、現状に即した 支援につなげている。声掛けのトーン・ドアの 開閉等、プライバシーへの配慮について周知 を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	水分量や食事形態について主治医や看護 師に相談し必要であれば服薬もして頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴。施設側の都合になりがちで あるが 無理強いせず気分よく入って頂けるよう に 入浴剤や菖蒲湯等工夫をしている。	入浴日を設定し週2回の入浴を基本としてい るが、利用者の体調や気分に応じて柔軟に 対応し、入浴状況はタブレット内の入浴記録 で把握している。一般浴槽で、一人ずつ湯を 入れ替え、自分のペースでゆっくり入浴でき るよう時間調整している。浴槽での入浴の希 望があれば、2人介助も取り入れて浴槽での 入浴を支援している。看取り期等、利用者の 身体状況に応じて、シャワー浴・清拭で対応 している。入浴拒否がある場合は、無理強い せず、日や職員を変えながら対応している。 入浴剤・しょうぶ湯・ゆず湯で、入浴をより楽 しめるよう工夫している。	

たのしい家八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息や夜間の睡眠は個々の習慣を尊重しつつ生活リズムの安定に配慮している。昼夜逆転にならないように日中レクリエーションなどにて楽しめるように工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師の管理指導の下、服薬の支援を行い、処方箋や薬手帳等で利用者それぞれの服薬の状況や変化などを把握、共有に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や嗜好、出来ることを活かしたレクリエーションを行ったり、家事等の役割をもっていただくことで自信に繋がる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近隣の公園やスーパーにてでかける。介護タクシーに乗って外食に出かけたこともある。	コロナ禍のため通常の外出は休止し、主に、近隣の散歩での外出となっている。敷地内に菜園があるため、水やりや収穫等の菜園活動で戸外で気分転換する機会を設けている。ユーチューブを活用し、音楽や映像を楽しみながらいろいろな体操に参加できるよう工夫し、身体機能の低下予防に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金を施設側で預かり、外出時に好きなものを購入して支払って頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1名の利用者が携帯を持っておられ友人や家族との会話を楽しんでおられる。家族からかかってきた電話に出て頂く事もある。		

たのしい家八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃や室温管理、季節に合った壁飾り等職員は環境の整備に努めている。施設外の駐車場の横にある花壇には職員の植えた花や野菜などがあり水をあげたり観賞をしたり収穫をして季節感を味わって頂いている。	各フロアの共用空間は、空気清浄機の設置・温湿度管理・掃除・換気・消毒等により、環境整備を行っている。テーブル席と2カ所にソファを設置し、一人になれる場所も作り、思い思いにくつろげるよう配慮している。利用者と一緒に制作した季節に合わせた作品を壁に飾り、季節感が感じられる。キッチンで手作りの調理を行い、利用者も調理・掃除・洗濯物たたみ等に参加し生活感を取り入れている。動線や死角に配慮してテーブル等を設置し、トイレや居室に目印をつけてわかりやすく表示する等、安全に自立した生活が継続できるよう配慮している。菜園や玄関前の駐車スペースも共用空間として活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各所にソファなどを置いて、異なった環境を楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、今まで共に生活されてきた馴染みの物や写真等持参して頂き、なるべく環境を変えないように努めている。	各居室に、ベッド・クローゼット・コールボタン・カーテン等が備え付けられている。家族に使い慣れた家具や道具・馴染みの物の持ち込みを勧め、筆筒・テレビ・家族の写真・人形等が持ち込まれ、居心地よく過ごせる環境づくりを支援している。動線に配慮した家具の配置、床の整理整頓など、転倒予防に注力している。居室担当職員が、衣替え・物品購入等を家族と連携して行い、カーテンの洗濯やエアコンの掃除も担当している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は全面フラットで各所に手すりを付けている。共有スペースは見通しが良く、居室、トイレ等には目印をつけており、能力に応じて自分の意思で移動出来るように配慮している。		